

## 槇尾川ダム 意見陳述

### 意見陳述者

私は、現在建設事業が進められております槇尾川ダムの地元和泉市にあります横山小学校区町会連合会会長という立場から、本日は本事業を一日も早く完遂いただきたい、そのような立場から意見陳述を行いたいと思います。

建設予定地であります槇尾山は、西国四番の札所で、有名な施福寺のふもとにございまして、年間を通じて多くの老若男女が参拝する風光明媚な土地柄でございます。私自身もこの地に生まれ育った人間でございまして、ことのほか深い愛着もございまして、子々孫々に至るまでこの地で安心して、安全に暮らせるようにしたいと、常々熱願しているものでございます。そのためには、大雨による浸水などの被害の心配がなくなることが必要でございまして、根本的な治水対策が重要であると考えております。

槇尾川のすさまじい氾濫被害については、私自身過去何度か遭遇いたしてございまして、今なおその情景を鮮明に記憶しております。集中豪雨によって轟音とともに濁流が堰堤を襲う様子、また荒れ狂ったように家屋・田畑を瞬く間に襲う自然災害の恐ろしさにつきましては、身をもって実感いたしてございまして、地元横山地区においては、狭隘な河川を拡幅することは物理的に極めて困難なことから、槇尾川ダムを上流に建設していただき、初めて抜本的な治水対策になるのではないかと強く感じているところでございます。

現在大阪府により進めていただいております槇尾川の整備は、この槇尾川ダム建設と河川改修をセットに、河川改修は当面時間雨量 50mm の洪水に対応できるよう計画されていると伺っていますが、聞くところによりますと、大阪府が管理する泉州地域における河川整備の状況は、おおむね 82% の整備が図られているものの、槇尾川につきましては、平成 15 年度現在、いまだ 60% 程度の整備率に止まっているとのことでございます。

私ども地元町会といたしましては、大阪府民として最低限度享受すべき権利すらいまだに達成されていないことに強い怒りを覚えているものでございます。そのような状況の中、現在槇尾川ダム建設につきましては、大阪府ご当局のご努力によりまして、

おかげさまで年々着実に進められており、大変感謝をいたしておるものでございます。

一方、槇尾川ダム建設に異を唱える方々からは、計算方法が過大であるとか、建設費用が膨大であるとか、自然環境に配慮すべきなどの提唱がなされているように聞き及んでおりますが、これらはいずれも、いつ起こってくるかもしれない大規模な洪水被害の不安を抱える流域住民からすれば、そのような批判の声を上げること自体、看過できないゆゆしき問題であると断言せざるを得ません。

計算方法等につきましては、住民の安全を確保すべき立場にある行政の責任において確認すべきものであり、無責任な意見は差し控えていただきたいと考えております。利便性が高く、生活環境が整っている都市に住み、遠くから山を眺めているという状況にある反対派の人たちのダム建設地域の住民の安全や生活を無視した無責任極まりないひとりよがりの意見や行動、要望には大きな憤りを感じているところでございます。

例えば、和泉市の市議会議員という要職にある方が、開設するホームページ等において、槇尾川ダム建設に関連して、「道路の拡幅で補償金がガッポリ、地権者と土建屋」云々と掲載し、地元が建設業者と共同でさも暴利を得ているがごとく無責任な中傷が反対活動の中で公然と行われております。この文言は、公共事業である槇尾川ダム建設事業に協力する地元関係者を愚弄する文言であり、まことに遺憾でございます。先祖伝来の大切な土地をやむを得ず割愛した地権者の名誉を著しく侵害するのみならず、忍びがたい屈辱を与え、その精神的な苦痛は計り知れません。

反対派の人たちが言う「建設費用が膨大である」につきましても、現在のダム案が全体として安くて早く整備ができるとお聞きいたしておりまして、財政状況が厳しい中ではありますが、全体事業の見直しなどのご努力もいただいておりますことは高く評価するところでございます。

また、この槇尾川ダム事業が再評価委員会で審議いただくことは大切なことだと存じますが、委員先生方におかれましては、どうか災害から住民の生命や財産を守ることが行政の重大な使命であることにかんがみ、行政の主体性で執行すべき内容と府民の意見を聞いて行う内容とは区別してご審議いただくようお願い申し上げます。

自然環境面につきましても、私ども和泉市には光明池をはじめとした農業用ため池がたくさんございます。これらは、先人が自然と対峙しながら培った知識を踏襲しな

から、維持管理に努めております。光明池の容量は 370 万 m<sup>3</sup> ありますが、槇尾川ダムはこの 3 分の 1 の容量でございます。ダム周辺に与える影響は少ないと考えてよいのではないのでしょうか。

我々は、地域の中であって、ダム周辺山間部においても、台風や大雨などのときは、行政と一緒に、地滑り等の自然を食い止めるための努力もしております。過去からもそうしてきました。今後もそうしていきたいと考えております。確かに、ダムにより森林の面積は減少しますが、私どもは受け入れるべき自然破壊と、そうでない自然破壊を毎日の生活の中で身近なものとして判断しながら生活をしております。

槇尾川ダム建設につきましては、現在大阪府ご当局の献身的なご努力により、先の大阪府建設事業再評価委員会でのご審議を得ながら事業が進められているところでございます。平成 11 年の再評価及び平成 13 年度には工事用進入路の起工式をさせていただき、ようやく本格的に着手の運びとなったと、地域住民一同喜んでおりました。また、昨年 10 月には、地元から太田知事さんへさらなる事業の促進の要望を差し上げたときは、知事さんから「地元の意向はよくわかっている」とお聞きし、力強く思ったところでございました。

そんな矢先に、再度評価されると聞き、驚いているところですが、前回の再評価同様に地元横山からの思いを推進要望書に取りまとめて提出させていただいております。それと併せまして、今回は、和泉市町会連合会といたしまして推進要望書を提出させていただいております。要望書の署名は、和泉市小学校区 20 校区の全町会、自治会の役員全員は無論のこと、154 名の単一町会長の皆様方の署名へと広がりを見せております。このことは、槇尾川の根本的な治水対策のために、ダム事業の早期完成が必要であるという和泉市町会自治会としての願いの証でございます。

事業推進状況から見ますと、まだまだスタートを切ったばかりであり、完成までに相当の期間が必要となると聞いております。我々の心配は、一部の心ない反対の意見により事業が遅れることとあります。委員、諸先生方におかれましては、何とぞ地元流域住民の切なる声を聞き届けていただきまして、早期完成に向けて一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます、私の意見陳述を終わらせていただきます。

何とぞどうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。